



●あともよそわか

株式会社八幡ねじ

代表取締役社長 鈴木 建吾

最近日本に閉塞感が漂っています。その理由は、これからの日本が良くなるという可能性が見えないところから来ています。今、中国では中国語を話せる日本人が7万円から10万円で雇えるそうです。このまま行ったら日本もそうなるかもしれない、そうなったらどうなるのだろうという危機感が閉塞感になっています。また、これからの少子化で需要が減ることから、会社の数が減ります。企業の数が減ると就職の機会が減るのではないかと心配されます。実際に今年は就職が難しくなり、就職浪人が出ます。就職浪人になる人は社会人としての意識が弱く、企業で雇っても再教育しなければ使い物になりません。

政治の世界も不安定で、確固たる信念を持って日本のためにこうするんだというリーダーが不在で、ただその場だけを取り繕って言い訳はうまい人がリーダーをしています。こうなった理由を考えると、日本人がみんな上を見て生活して、その本質が弱くなっているからだと思われれます。日本は戦争ですべてをなくし0からの出発をしました。0からの出発ですからがむしゃらに頑張ってきました。そして気がついたら、昨日より今日が良くなり、明日がもっと良くなると確信が持てたからです。禅語に「看脚下」という言葉があります。足元を見るということです。今必要なことは足元を見ることだと思います。暗闇を歩いていくのに灯火が何よりも頼りとなる。しかし、それがいま消えてしまったらどうしますか。そんなときには「足元を看ます」ね。暗闇で

頼りとなる灯火が消えたら、つまずかないように姿勢を低くして足もとをよく注意して歩きます。今の日本は暗闇そのものです。その暗闇を歩くには、どうしたらよいでしょう。

「あともよそわか」ということばがあります。小説家、幸田露伴が娘の文に教えた言葉です。幸田露伴は文が十七、八歳になるまでの間、実に細かく、それは、はたきのかけ方から雑巾のかけ方、箒のつかい方、台所仕事におよぶ徹底的に教えました。そして、教えかたは「梯子も一段一段上がらなくちゃならない。二段も三段もまたぐことは無理なことだ」と、先ずは掃き掃除をしっかりと身につけさせることにしたのです。掃除を終えると露伴は「あともよそわか」と唱え、「もういいと思っても、もう一度よく、呪文を唱えて見なおしてみるんだ」と教えました。「あともよそわか」の「あともよ」は「跡を見て、もう一度確認せよ」、「そわか」は成就を意味する梵語だといいますが、「あともよ」は決して「あとを見て、もう一度確認せよ」と文に向かって言った言葉だけではなく、それはあくまでも自分自身の行いに対して責任を最後まで全うするよう露伴が自分自身に向けて言い寄せた謙虚な言葉でもあったのです。

今は、やりっぱなしが多すぎます。我々経営者の責任は自分の足元を見て、反省することではないでしょうか。「あともよそわか」ということこそ、今リーダーにとって必要な言葉だと思います。